

《誌上キャンパスツアー》

「知」の空間を 探訪する

古代ギリシアの哲学者プラトンは紀元前4世紀、アテネ近郊に位置するアカデモスの森に「アカデメイア」を創設。

今日、「アカデミー」などの語にその名を残すこの学園に同時代の叡智が集い、幾何学や天文学などの学問が花開いていきました。

その人類の「知」の資産は今日、大学という空間に集い、さらなる発展を目指し教育・研究活動が日々営まれています。

「学問」の未来に向かって開かれた、豊かな扉の“向こう側”を訪ねてみませんか。



学習院大学

西1号館

キャンパスには中央教育研究棟や自然科学研究棟(南7号館)など、最新設備を備えた教育研究施設はもちろん、南1号館や北別館(史料館)、東別館のように、歴史と伝統を感じさせる、風格ある校舎群も建ち並んでいます。

なかでも「西1号館」は、英国の名門イートン校をモデルとして1930(昭和5)年に建てられた、学習院大学のシンボルとも言える建造物です。国登録有形文化財にも登録されていますが、そのクラシックな外観とは異なり、内部は1999(平成11)年に全面リニューアル。31室の語学・演習用教室のすべてにマルチメディア機能が導入され、1人1台ずつパソコンを利用し、最先端の授業にも対応するなど、現役校舎として今なお活躍しています。



慶應義塾大学

三田演説館

三田演説館は、明治8年5月1日に開館した日本で最初の演説会堂です。構えは木造瓦葺、洋風、なまこ壁で、一部2階建になっており、総坪数は附属建物合わせて約88坪になります。昭和42年6月には重要文化財に指定されています。

ここでは多くの著名人が演説をしてきました。日本で初めて演説が行われたのは明治6年のことで、それは創立者・福澤諭吉を中心にその門下生数名が西洋のスピーチ(演説)、ディベート(討論)の法を研究して創始したものです。また、犬養毅や、野口英世などもここで演説を行いました。開館当時の様子を今に伝える三田演説館は、慶應義塾の伝統と先進性を象徴する建築物といえるでしょう。

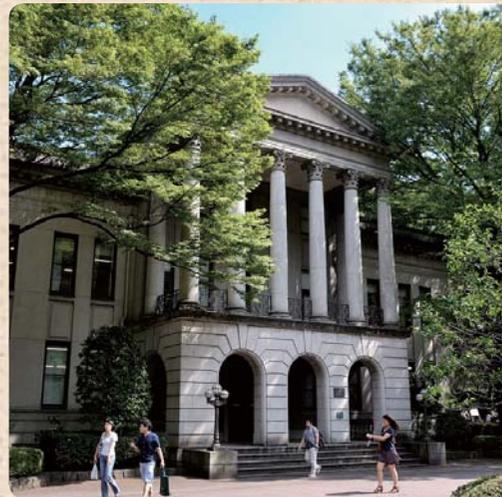
青山学院大学

間島記念館

関 東大震災後の校舎復興に際し、校友・間島弟彦氏が母校に図書館の建設費寄付を申し出られ、間島氏の死後、愛子夫人が氏の遺志を継いで1929年に間島記念図書館を建設。現在は「間島記念館」として当時の姿をとどめています。

青山キャンパス正門から正面奥に見えるコリント様式の外観の間島記念館は、青山学院の歴史と伝統の象徴です。

なお、2008年3月、間島記念館は「意匠的にすぐれた近代洋風建築であり、保存状態が極めて良好である」との評価を受けて、国登録有形文化財(建造物)に登録されました。



中央大学

2号館(後楽園キャンパス)

2号館は理工学部の最先端の教育研究拠点であり、現在、4学科(都市環境学科、精密機械工学科、生命科学科、人間総合理工学科)の研究実験施設が設置されています。

構造面では省エネルギーへの配慮をはじめ、より高い耐震性を担保すると同時に、内部は可能な限り柱をなくすことで、研究内容の変化に応じて容易に間仕切りが変更できるフレキシビリティを確保するなど、さまざまな技術的工夫が凝らされています。また、建設に伴って伐採された樹木を再利用したベンチや新たな試みを加えたアメニティーなど、“継承”と“創造”を表現した施設となっています。





法政大学

富士見ゲート

超 高層のポアソナード・タワーと、歴史を誇る校舎群が共存する市ヶ谷キャンパスでは、現在使用している55・58年館の建替工事を2014年から開始。1955年以来、学生が集い、学び、学園生活を謳歌する場所として親しまれてきた建物はその役割を終え、新世代の都市型キャンパスへと変貌を遂げます。

再開発計画では、2016年9月、ポアソナード・タワーと外濠校舎の間にあった正門の位置に大きな開口部を持つ「富士見ゲート」が完成しました。完成後ただちに新しい教室や食堂、学生ホールなどの利用が開始されています。キャンパスの南側には、「南棟（仮称）」の建設が進められます。



明治大学

明治大学博物館

駿 河台キャンパスにそびえるツインタワーの一角、アカデミーコモン地階を占める明治大学博物館。収蔵品の充実と調査・研究に努め、学部・大学院の特色ある教育研究に資するとともに、社会に開かれた「知」の窓口として進化を続けています。

常設展示室は、漆器、染織品、陶磁器などの工芸製品を紹介する「商品部門」、歴史的な法や国内外の拷問・処刑具など人権抑圧の歴史を語り伝える「刑事部門」、旧石器時代から古墳時代にいたる、明治大学の考古学研究の粋を集めた「考古部門」から構成。このほか、多彩な教育研究資源を公開する展覧会や講演会、体験学習型講座などのプログラムも実施しています。



早稲田大学

坪内博士記念演劇博物館

演 劇の早稲田”のシンボルである演劇博物館は、日本で唯一の演劇専門の博物館です。1928（昭和3）年10月、坪内逍遙博士が古稀の齢（70歳）に達したこと、その半生を傾倒した「シェークスピア全集」全40巻の翻訳が完成したことを記念して、各界有志の協賛により設立されました。

錦絵46,800枚、舞台写真400,000枚、図書255,000冊、衣装・人形などの博物資料159,000点など、およそ百万点にもおよぶ膨大なコレクションは、80年以上培われた“演劇の歴史”そのものといえるでしょう。年数回の企画展と、日本演劇の歴史を概観できる常設展があり、一般の方も無料で利用できます。



同志社大学

クラーク記念館

18 93（明治26）年に竣工（国指定重要文化財）。アメリカのB.W.クラーク夫妻がアメリカン・ボード（海外宣教団体）に申し出た寄付金をもとに建てられました。設計はR.ゼール。塔屋が印象的なこのレンガ建築は、同志社のシンボリック存在です。

老朽化のため、5年間にもおよぶ大規模な修復工事を行い、2008年3月、創建当時の姿に復原されました。なかでも2階の講堂は、「クラーク・チャペル」と命名され、礼拝をはじめ講演会や結婚式など、同志社のキリスト教主義の発信地として、また人々のメモリアルな場として、広く利用されています。

立教大学

本館（モリス館）

18 74年、創立者ウィリアムズ主教により築地に開設された立教学校（1907年立教大学に改称）は、1918年に現在の地・池袋に移転しました。その際に、米国聖公会宣教師アーサー・ラザフォード・モリス氏の寄付によって建てられたのが、「モリス館」の名で親しまれている立教大学のシンボル・本館です。

震災と戦災をくぐり抜けた、つたの絡まるチューダー様式の美しいレンガ建築は、東京都選定歴史的建造物にも選ばれました。中央時計台の時計はイギリス・デント社製、動力は分銅式で、今日でも5日に一度、手で巻かれています。歴史的建造物としての価値を維持するため、2011年度に耐震補強・改修工事を実施しました。



立命館大学

大阪いばらきキャンパス

18 15年4月、大阪府茨木市に大阪いばらきキャンパス（OIC）を開設しました。経営学部・経営学研究科、政策科学部・政策科学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科、経営管理研究科が移転、2016年4月には総合心理学部を開設しました。

都市型の立地を活かして、産業界や行政機関等との一層の連携による教学展開とともに、立命館学園の社会連携のフロントライン、交流拠点としての機能を高めています。

キャンパス全体をラーニング・プレイスと位置づけ、あらゆる場所で、いつでも、どこでも、誰とでも学ぶことができ、「学生文化の発信拠点」として、地域そして世界に開かれたキャンパスとして、学生の活動を大学内外へ発信していきます。



「知」の空間を
探訪するCampus
Tour

関西大学

千里山
キャンパス

阪 神甲子園球場の約9倍、総面積約35万㎡の広さを誇る千里山キャンパスは、都心に近い好立地でありながら緑豊かで、10学部（法、文、経済、商、社会、政策創造、外国語、システム理工、環境都市工、化学生命工学部）の学生と大学院生が学ぶ文理融合型のキャンパスです。

学生の活気と自由な気風に満ちた学びの空間には、学舎を中心に、研究施設や多目的ホール、グラウンド、温水プール、食堂、書店などあらゆる施設が充実。なかでも、総合図書館（写真）の蔵書数は213万冊を超え、来館者は年間約76万人に上ります。また、凜風館（総合学生会館）では屋上緑化や風力発電、雨水の利用など、環境問題にも積極的に取り組んでいます。



関西学院大学

時計
塔

関 西学院大学の西宮上ヶ原キャンパスは、日本で活躍した建築家 W.M. ヴォーリズ の設計によるもの。1929年の移転以来、その美しさを誇り続けています。

赤い瓦屋根とクリーム色の壁の「スパニッシュ・ミッション・スタイル」で統一されたキャンパスの中心に位置するのが、関学のシンボル「時計台」です。今日もなおその優美なたたずまいで、学生・教職員の知的探究の時を刻んでいます。開学当初から国際色豊かな環境で教育を行ってきた関西学院大学は、平成26年度 文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択されました。世界を変える創造的な人材の育成に力を注いでいます。

